



生誕120年 | YASUZO NOJIMA
野島康三——肖像の核心展

会期 = 2009年9月29日(火) — 11月15日(日)

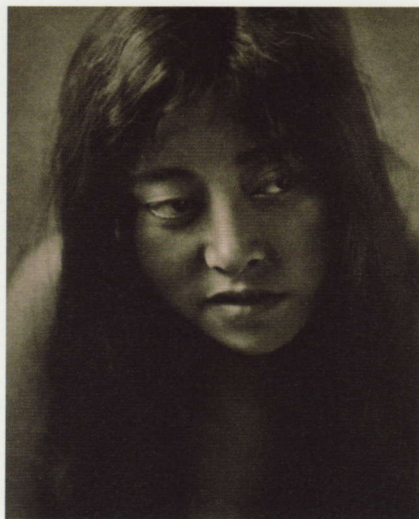
開館時間 = 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) 毎週金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)
休館日 = 10月5日(月)、10月13日(火)、10月19日(月)、10月26日(月)、11月2日(月)、11月4日(水)、11月9日(月)
入館料 = 一般300(240)円 小中学生100(80)円 ※()内は10名以上の団体料金 ※60才以上の方、障害者の方(付添1名含む)は入館無料 ※毎週土曜日は小中学生の入館無料

渋谷区立松濤美術館 渋谷区松濤2-14-14 〒150-0046 TEL 03-3465-9421 FAX 03-3460-6366
<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

主催 ● 渋谷区立松濤美術館 / 協力 ● 京都国立近代美術館 10月1日(木)は「平和国際都市渋谷」の日のため入館無料

生誕120年 | YASUZO NOJIMA

野島康三—肖像の核心展



野島康三（1889-1964年）は、日本の近代を代表する写真家のひとりです。

生誕120年を記念して、野島の写真世界の全貌を展覧いたします。

野島康三は慶応義塾在学中に写真に興味を抱き、東京写真研究会などで作品の発表を始め、頭角をあらわします。初めての個展（1920年）で重厚な裸婦像と人物像で注目され、川上涼花から「本体の掴み方に向かつてゐる」と評されました。日本写真会の同人として活躍し（1926年-）、国画会写真部の創設に参加する（1939年）など、日本近代写真のなかに大きな足跡を残しました。なかでも、中山岩太、木村伊兵衛とともに写真同人誌『光画』（1932-33年）を主宰し、新しい写真運動を行なったことは重要です。

本展は、初期から晩年作まで風景、静物の代表作もすべて展覧する回顧展ですが、野島の肖像作品に特に注目いたします。ゴム印画による凝縮した男性像（1920年代）から、プロムオイルによるひとりの女性のヌード／肖像連作（1931年頃）、そして銀塩プリントによる都市の女性の肖像群（1933年）へと展開したあと、1940年前後にはスタジオ内で野外の効果をねらったフェイクともいえる演出を試みています。野島の作品のこうした振幅を通して、改めて肖像の持っている可能性を検討する機会といたします。

野島康三の写真作品約150点に、関連作家作品および関連資料をあわせて紹介する本展は、写真に興味を持つすべての方にご覧いただきたい内容です。

図版すべて野島康三作品 右から《柳宗悦氏像》1923年、《題名不詳・F》1931年、《Typical Japanese Modern Girl》1939年 裏面：《女の顔》1933年

● 講演会

10月18日（日） 午後2時より「肖像のエニグマ——絵画と写真のまなざし」

講師：岡田温司（京都大学大学院教授）

● ギャラリー・トーク 午後2時より 担当学芸員 10月3日（土）、10月14日（水）、11月6日（金）

□ 美術相談 午後2時～4時 10月17日（土） 講師：北尾和子（水彩画）／ 11月15日（日） 講師：内山懋（油彩画）

□ 美術映画会 午後2時～3時 10月10日（土）「ミュシャ 愛の世界」／ 11月7日（土）「ゴッホ 心の旅」



生誕120年記念刊行物

「渋谷区立松濤美術館所蔵 野島康三作品と資料集」（渋谷区立松濤美術館）
「野島康三写真集」（赤々舎）

関連展覧会

「柳宗悦の世界—生誕120年記念特別展」（日本民藝館：9月8日～11月19日）

次回展予告 没後90年 村山槐多 12月1日（火）～2010年1月24日（日）

渋谷区立松濤美術館

渋谷区松濤 2-14-14 〒150-0046 TEL 03-3465-9421 FAX 03-3460-6366

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>